

「東九州新幹線」の早期実現を要望 九州を環状で結ぶ、強靱な未来の交通ネットワーク構築を目指して

4月15日(水)、上毛町長を団長とした京築地域の自治体代表者団が、衆議院議員の稲田朋美氏(整備新幹線等鉄道調査会 会長)を訪問し、「東九州新幹線構想」の推進に対する要望書(第1回)を提出しました。

現在、九州の高速鉄道網は西側に偏在しており、福岡・大分・宮崎・鹿児島を結ぶJR日豊本線沿線の東九州地域は、高速交通ネットワークから取り残され「空白地帯」となっています。企業立地や人口移動に悪影響を及ぼしているこの不均衡を打破するため、以下の3点を重点的に要望しました。



▲(今回の参加者)左から 西元健豊前市長、小坪慎也行橋市議会議員、稲田朋美衆議院議員、坪根秀介上毛町長、古市照雄築上町長、米谷友宏行橋市副市長

①移動時間の短縮と経済連携の強化

北九州・鹿児島間を結ぶ新たな高速軸を形成し、九州を環状に結ぶことで新たなビジネス機会の創出が期待されます。

②災害に強いネットワークの構築

東九州自動車道に沿った整備により、南海トラフ地震等の災害時でも広域支援や代替輸送が可能な、強靱な交通ネットワークの構築につながります。

③経済構造の改革

単なる地域交通の改善だけではなく、九州全体の経済構造の変革が期待されます。

東九州新幹線の推進は沿線自治体及び住民の悲願であり、今後も近隣市町とワンチームで、地域の発展と安全な暮らしの実現に向け強力に働きかけていきます。

— 要望活動参加自治体 (順不同) —

- 苅田町
- 行橋市
- みやこ町
- 築上町
- 豊前市
- 吉富町
- 上毛町
- 中津市

もしもの時に備えて 上毛町災害ボランティアバイク隊

4月1日(水)、上毛町災害ボランティアバイク隊顧問の委嘱状交付が町長室で行われました。上毛町災害ボランティアバイク隊(以下バイク隊)は令和6年7月に、災害時にバイクの機動力を活用して、ボランティア活動を行う団体として設立されました。

災害発生時に町との協力体制で、住民の方々の役に立てるように、現在総勢8人で月1回の全員練習&講習会、社会福祉協議会の活動に参加、道の駅しんよしとみのイベントでバイクのデモンストレーションなどを行っています。

バイク隊が出動することがない、ということがありがたいことなのですが、もしもの時に少しでも役立てるように、日頃から準備しています。



上毛町災害ボランティアバイク隊メンバー (敬称略)

- 隊長 晃弘道(安雲)
- 指導管理監 高崎潤(宇野)
- 隊員 戸成祥平(豊前市)、
椎木圭一郎(土佐井)、
高西正人(吉岡)、渡辺哲也(安雲)
中山大輔(成恒)
- 研修生 近藤容祐(宇佐市)



バイク隊では
隊員を募集しています!

ご興味を持たれた方は上記のHPよりお問い合わせください。



▲左から 高西正人さん、中山大輔さん、渡辺哲也さん、晃弘道さん、戸成祥平さん

01 サテライト通信 創刊号

このコーナーではサテライトオフィスにゆかりのある魅力的な人々を不定期にご紹介していきます。

ビール醸造所だった「旧大平麦酒館」がリノベーションされ、アイデアが生まれるクリエイティブなサテライトオフィス「THE THINK FACTORY, KOGE」として生まれ変わりました(2024年4月~)。

全館フリーWi-Fi完備で、自由席や個室など、ニーズに合わせた使い方が可能です。京築ヒノキの香りと窓の外に広がる景色を楽しみながら、自分らしい働き方を見つけてみませんか?

国内最大級の建築コンテスト グランプリ受賞!

THE THINK FACTORY, KOGEには、全国から注目を集めるスペシャリストが集っています。この度、市崎信寛さんが、国内最大級の建築コンテストのリフォーム部門で日本一のグランプリに輝きました(2025年度は1,758社 3,827作品/うちリフォーム部門は2,423点)。その空間を彩る家具をすべて手がけたのが土井純平さん。上毛町にゆかりのあるユニット「ケイチクリノベ」のお二人に、仕事へのこだわりと、上毛町の未来に向けた熱い想いを伺いました。

ケイチクリノベや受賞作品はこちらから⇒



家具職人
土井純平さん

建築家
市崎信寛さん

「建築家」と「家具職人」のふたりの共同

市崎さん 建築は「構造と空間」、家具は生活に触れる「味付け」です。コンテストでは、単なるデザイン性だけでなく、耐震性や断熱性能といった「住まいの総合力」「暮らしの本質」的な部分が厳しく評価されます。特に、家を建ててから家具を置くのではなく、同時に進めることで、本当に心地よい「良い家」ができるんです。

土井さん 通常、家具屋は家が建つ経緯を知らずに家具を選びますが、市崎さんとは最初からストーリーを共有できるので、空間への馴染み方が全然違います。市崎さんの設計は常に「住む人の未来」を見据えています。そこに私の家具が加わることで、生活の質がさらに深まると思っています。

さまざまな「価値」に触れる機会を

土井さん 日本には素晴らしい家具文化がありますが、残念ながら、今は安価な使い捨ての家具が主流になりつつあります。だからこそ、子供の頃から「本物の木」や「良いデザイン」に触れる体験を上毛町で作っていききたいんです。

市崎さん 同感です。良い建築やデザインを知ることは、自分の住む町や暮らしを大切に思う「価値観」を育てることにつながります。上毛町には素晴らしい古民家もたくさんあります。これらをただ保存するだけでなく、現代の技術で快適な空間として再生させることが、この町の新しい価値になると信じています。

土井さん 普段、肌に触れる家具に興味を持つことは、日々の幸せの積み重ねになります。先日、上毛中学校での講話で「この椅子は20万円します」という話をしました。中学生には衝撃だったようですが、そうした「本物の価値」を知るきっかけを作ることが大切だと思います。

市崎さん デザインとは、自分で考えて課題を解決することです。町全体でこうした教養や価値観が高まることで、本当の意味での「まちづくり」に繋がるのだと思います。